

「主婦向けテレビ番組」に組み込まれる前提としての ジェンダー・イデオロギー

西野由起江

家庭にいる人を対象とするテレビの情報・ワイドショー番組では、主婦を含む女性へのジェンダー・イデオロギーがゆるやかに再生産されている可能性がある。そこで制作・編集され、日々視聴者に向けて送り出されている「役立つ情報」は、主婦や女性のありかたを形成するための世論を作り出す啓発番組としての側面を持っていると考えられる。そうやってメディアを通して送られる情報によりジェンダーに関する常識や規範としてのジェンダー・イデオロギーが大衆にとって正しいこと、あるいは常識として認識されていくのではないだろうか。「主婦」という語には、人々の意識下で（辞書的意味の他に）社会構造に結びつき歴史的社会的に構築されてきた様々なイデオロギーが付随しているが、それはこれらの番組が情報として扱う家事、育児、家庭教育、介護などは主婦に課される役割として受け入れられてきたからである。

本発表では、批判的言語学の視点とジェンダー・スタディーズの立場から、主婦向けテレビ番組の談話行動を考察した。主婦向けテレビ番組が想定・設定している主婦像には、社会で共有されている「主婦」と言う語に対するイデオロギーが含まれており、番組中の談話行動を通して家庭内での性別役割についての前提が示されると考えられる。分析対象には、NHKが制作した主婦向けテレビ番組のうち最も古い『こんにちは奥さん』（1967年放送）のオープニングでの発話例と、現在放送中の『あさイチ』のオープニングでの発話例を選んだ（いずれも発表者がNHKアーカイブス学術利用トライアルにて取得した）。NHKは、朝の情報番組の視聴対象を主婦や家庭にいる人と想定し、主婦が知りたい情報、主婦に役立つ情報を提供している。視聴者は情報

に埋め込まれている、女性であり、多くは母親であるという主婦についての前提を示す談話を公共放送の情報の信ぴょう性と結びつけ、主婦という語の意味を受け入れていると考えられる。

なおオープニングの談話行動には、南(1987)の談話行動の10要素に従い、次の4項目が現れるものとして分析を行う。すなわち、①番組内での発話として捉える「言語表現そのもの」、②当該番組で扱われているあらかじめ構成された大きなテーマと番組内で同意の上で展開される短いテーマと認定できる「話題」、③設定されたトピックとなる情報源をもとに話されているという「文脈」、④番組を大きな送り手として捉えた上で番組内の参加者同士の会話が情報の流れを助け、いかなる会話においても受け手側には不特定多数の視聴者が存在するという「ネットワーク」、である。

また、テレビ番組で展開されている談話をスコロン(2010)による関与の場「媒介された行為が生じる一瞬の社会的実践の集合体における社会的実践の共同体」の概念に従い、社会的行為の一部とみなして分析を進める。番組出演者による発話は番組制作者によってあらかじめ決められた社会的意図を含んだ関与の場における談話行動の一部であり、番組内で共有できている情報メディアの中で展開されている談話は社会的行為である。この社会的行為である談話行動によって送られる情報は視聴者にとっても共有できる前提として受け入れられていく。

具体的な分析では、主婦向け番組として番組制作者側が設定しているメディア・フレームの中で、視聴者に主婦向けの情報として受け入れられることを前提とした(談話行動中の)発話部分に注目した。発話において、ある種の情報があたかも視聴者と共有されている前提事柄として現れていることを明らかにし、主婦とジェンダーに関わるイデオロギーについての発話内容が番組の進行上容認されていることを指摘し分析を行った。このような容認の形式は現在放送中の『あさイチ』にも共通している。番組での談話行動における主婦向けであるための前提の容認形式がキーワードと強調の連鎖であることを示す。

さらに、フェアクラフ(2012)による前提と間テキスト性の理論に従い、『こんにちは奥さん』の談話の分析では、オープニングとオープニングに続く

テーマ「お父さんの休日」に関するインタビュー形式の発話において、司会者とその発話に夫側、妻側というジェンダー役割と当時の社会的に容認されていたであろう常識を組み込み、番組の中で共有されている前提を再生産していることを明らかにする。『あさいち』のオープニングにおけるおしゃべり風の会話には、自然な発話形式を模していながら、ステレオタイプなジェンダーや社会的常識が組み込まれており、オープニングに引き続き展開されるテーマが主婦向けとして受け入れられるための枠組み作りを強化している。これらの分析対象の番組では、ジェンダーに関わる社会通念とみなされて伝えられている事柄が、発話テキストだけではなく談話行動の中におりこまれ、肯定と強調が重ねられている。その結果、視聴者はジェンダーに関わる規範を常識的な事柄であると受け取ることに繋がるのだと考える。

[参考文献]

- フェアクラフ, ノーマン (2012) メディア英語談話分析研究会訳『ディスコースを分析する社会研究のためのテキスト分析』, 日本メディア英語学会.
- 南不二男 (1987) 「I 理論編 談話行動」, 『談話行動の諸相 — 座談資料の分析』, 国立国語研究所, pp. 5-35.
- NHK 番組アーカイブス学術利用トライアル, 『こんにちは奥さん』, 1967年3月20日放送.
- NHK 番組アーカイブス学術利用トライアル, 『あさいち』, 2016年4月26日放送.
- スコロン, ロン (2010) 善永美央子訳「行為とテキスト — 社会的 (相互) 行為におけるテキストの位置と媒介された談話の分析と社会的行為の問題を統合的に考える」, ヴォダック, R.・マイヤー, M. 編著, 野呂香代子監訳『批判的談話分析入門』, 三元社, pp. 193-248.

(にしの ゆきえ・大阪大学大学院生)